



やすぎ 市議会だより

vol.

71

2022. 7

5月緊急会議・6月定例会議特集 やすぎ未来トーク開催

主な掲載内容

本会議で審議された議案等……………P 2
6月定例会議一般質問要旨……………P 3～P 9
6月定例会議委員会報告……………P 10
やすぎ未来トーク……………P 11～P 12

編集・発行：安来市議会広報広聴委員会
TEL：23-3125/FAX：23-3153

鷹入の滝（伯太町上小竹）撮影：三原哲郎議員

令和4年5月緊急会議（令和4年5月27日）議案等の審議結果

5月緊急会議では「低所得者の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金給付事業」による予算案1件の審議を行い可決いたしました。また報告5件を受けました。

■全会一致で可決、認定等した議案

提出者	番 号	件 名
市長	議第59号	令和4年度安来市一般会計補正予算（第1号）

■報告事項

提出者	番 号	件 名
市長	報第7号	議会の委任による専決処分の報告について
	報第8号	議会の委任による専決処分の報告について
	報第9号	議会の委任による専決処分の報告について

提出者	番 号	件 名
市長	報第10号	議会の委任による専決処分の報告について
	報第11号	議会の委任による専決処分の報告について

令和4年6月定例会議（令和4年6月3日～16日）議案等の審議結果

6月定例会議では条例案2件、予算案2件の審査を行い可決いたしました。また報告3件を受けました。

■全会一致で可決等した議案

提出者	番 号	件 名
市長	議第60号	安来市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例等の一部を改正する条例制定について
	議第61号	安来市地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例制定について

提出者	番 号	件 名
市長	議第62号	令和4年度安来市一般会計補正予算（第2号）
	議第63号	令和4年度安来市病院事業会計補正予算（第1号）

■報告事項

提出者	番 号	件 名
市長	報第12号	令和3年度安来市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について
	報第13号	令和3年度安来市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について

提出者	番 号	件 名
市長	報第14号	令和3年度安来市病院事業会計予算繰越計算書の報告について



山陰ケーブルビジョンYouTubeチャンネル
安来市議会カテゴリーQRコード

安来市議会では、市民にも
つとよく見え、より開かれた
分かりやすい議会の推進を
めざして、「山陰ケーブルビジ
ョンやすぐじょっこテレビ」
による一般質問等の議会中継
番組をYouTubeで生配信
および録画配信いたします。
議会中継の視聴についての詳
細は安来市議会ホームページ
をご覧ください。

インターネット配信
開始



市民クラブ
澤田 秀夫

プラスチック新法について

質問 4月からプラスチック新法が施行されたが、市の取組みの変更点を伺う。

答弁 本市では、ごみの分別区分を16種類としプラスチック製品は「プラスチック類」「ペットボトル」の分別区分となっており、プラスチック新法に対応した分別収集を既にやっている。また「ペットボトル」は「ペットボトル」として、「プラスチック類」は「固形燃料」として再資源化処理を実施しており処理についても変更点はない。

質問 プラスチック新法の内容は、市民の協力が必要不可欠であるが、市民周知の見解を伺う。

答弁 法は施行されたが、本市としての取組みに変更がないため周知をしなかった。今後は消費者である市民の皆様の役割について周知していく。



小中学校の雨漏り整備について

質問 各小中学校で、雨漏りで困っているという相談は何校あるのか伺う。

答弁 豪雨や台風などの場合まで含めて程度の大小はあるが、小学校15校24箇所、中学校4校10箇所である。

質問 今年度を実施される小中学校の雨漏り改修事業の学校数並びに予算額を伺う。

答弁 今年度は、トイレ改修及び空調設備改修を集中的に実施している。予算額は、小・中学校整備費合計で、2億4,000万円である。そのうち雨漏り改修には1,800万円を予定しており、現在施工中のところを含めて2校を予定している。

質問 今年度、改修が計画されない学校に対するの対応を伺う。

答弁 施設の雨漏りの連絡があった際は、直ちに現場を確認している。また雨漏り改修をする場合は、その箇所を特定することが重要であり、状況によっては、雨漏り箇所の特定が困難な場合や、工法の決定に時間を要する場合がある。

今後についても状況の把握に努め、優先順位に基づき対応していく。直ちに改修ができずに不便をかけている学校もあるが、状況を説明し理解を得ながら対応している。

風水害対策について



誠和クラブ
三島 静夫

質問 4月に配布された防災マップは以前の防災マップとどのような違いがあるか伺う。

答弁 前回のマップは、80年に一度程度の雨が降った場合に、浸水が予想される区域や、浸水する深さを掲載していた。これに対し、新しいマップは、「想定最大規模」と呼ばれる、千年に一度程度の雨が降った場合に、飯梨川や伯太川などの氾濫により浸水が予想される区域として、国や島根県が公表する最新の洪水浸水想定区域図を反映したものとなっている。

質問 昨年度の被害で被害のあった地域に対して治水対策としてどのような取り組みを行ったか伺う。

答弁 市の対策として、冠水被害を受けた地区の水路壁の高上による越水対策、河川の計画的な体積土砂の撤去、黒井田地区での排水路整備、東飯島地区においては、吉田川からの逆流防止対策と仮設ポンプ整備を進めていく。県管理河川に対しては、冠水被害を受けている地域の、河川改修要望を継続して行っていく。

質問 災害時に土のうが必要になった際、土のう用の砂の確保をどのように行っているか伺う。

答弁 土のう用の砂については、市内26カ所に、2メートルに合計約30台分の約50㎡置いている。

質問 それらの砂は災害時に一般の市民の方は使うことができるのか伺う。

答弁 緊急時に砂が必要となれば、使用して頂いてよいと思う。その際は、安全管理をしつかりしたうえで、使用して頂くようお願いする。

ウクライナ避難民について

質問 安来市においてウクライナ避難民の受け入れについての見解を伺う。

答弁 ウクライナからの避難民の受け入れについては、災害等の被災者用に確保している市営住宅を住居として提供することは可能となっているが、その他滞在に必要な就労、教育・子育て、通訳など様々な支援体制を確保する必要がある、今後の体制を踏まえ、総合的に検討したいと考えている。

6月定例会議

一般質問要旨



誠和クラブ
石倉 刻夷

市立病院改革プランについて

質問 病床の再編に至った経緯と医師、看護師、スタッフの増員、確保戦略について伺う。

答弁 改革プラン（令和4年版）

で掲げる病床数は、地域医療構想を踏まえ、現有のスタッフで収益を最大化していくための短期的な目標数値である。令和7年度までは、医療需要に大きな変動はないと見込まれているため、急性期医療と在宅復帰支援の充実を図り、段階的に病床数を調整することとしている。

市立病院では近年、看護師を十分確保できず、実際に使う病床数を減らざるを得ない状況が続いており、令和3年度においては緊急入院が必要な患者様の受入れができない事例も生じた。病院の果たすべき役割として掲げている救急医療の提供に支障が生じているため、看護師等の確保を進め、以前の病床数に近づけていくこととしている。

長期的には、今後の医療需要の動向を踏まえ、安来市全体の医療提供体制をどう構築していくかという課題があるため、関係機関等と連携を図り調整を行う。

医師確保については、県及び近隣の大学病院に対し、応援要請を密に行ってきたが、厳しい状況にあり、従前の手法に加えて民間企業を活用するなど、多角的に医師の募集を行っている。今年度からはより一層充実した医師紹介サービスを導入していく。

看護師、薬剤師などの職種については、必要職員数の確保に向けて既に次年度の募集を開始している。医療従事者を育成する学校へ積極的に訪問し、市立病院の情報提供を行うなど「待ち」の姿勢ではない取り組みを強化する。



その他の質問事項

- ①SDGsの市の方針について
- ②オールやすぎ農林業応援プロジェクト事業について
- ③交流センターの活用について
- ④花嫁、花婿対策について



政進クラブ
飯橋 由久

2040年問題に向けた自治体運営

質問 2040年問題に対し、市勢の上でどのようにとらえているのか。

答弁 将来、深刻な労働者不足となる可能性は充分にある。2040年問題では、労働力、とくに若年労働力の絶対量が不足すると言われている。高齢者の割合も増えるため、行政への負担は今よりも格段に増えていくことが想定される。その時代に必要とされる行政サービスを、今よりも少ない職員数で対応する行政システムをいかに作っていくかが課題である。そういった観点から、本市としても、デジタル技術を活用した業務の効率化などに積極的に取り組んで行く必要があると考えている。

質問 労働力が絶対的に不足する地方自治体はどのように住民サービスを提供していくのか。

答弁 本格的な人口減少社会となる2040年頃を見据え、職員の力を本来注力すべき業務に向けるため、また自治体業務の在り方そのものを刷新するために、業務改善が必要となる。その有効なツールがAIやRPAがあり、すでに導入している物も含めて、検討しているところである。

質問 今後、デジタルツールが普及していく中、このツールに不慣れな高齢者等へのサービス提供はどのように行っていくか。

答弁 政府は目指すデジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人一人のニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会へ誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化を目指す」とされたところである。本市としても、市民の利便性向上や職員の業務負担軽減、経費節減等を目的として新たなデジタル手法を導入していきたいと考えているが、デジタルツールに不慣れな方に対しては、これまでどおりの手続きなどを継続して利用できる体制を整えていきたいと考えている。



公明党
佐々木 厚子

新型コロナウイルス感染症対応

地方創生臨時交付金活用

質問

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の令和3年度限度額の留保分1億5,000万円と、今回政府が新たに交付する原油価格・物価高騰対応分の交付金は、今後どのように活用されるのか伺う。

答弁

1億円は6月補正予算の財源として活用する。原油価格・物価高騰対応分は本市に1億9,000万円余が示されている。現在支援事業の検討を進めている。支援事業の中には市独自で進めるものや国・県など合わせてやっていくものがあるため、状況も注視しながら検討していく。

ヤングケアラー支援

質問

ヤングケアラーが、家族のために献身的に世話をすることはとても尊いことだが、それが原因で自分の将来に希望が持てず、苦しむようなことがあってはならない。そのため、政府は一人一人が思い描く人生を歩めるよう2022年から3年間でヤングケアラーの支援を強化する集中取組期間と定めた。そこで、安来市の現状と、集中取組期間の対応を伺う。

うなことがあってはならない。そのため、政府は一人一人が思い描く人生を歩めるよう2022年から3年間でヤングケアラーの支援を強化する集中取組期間と定めた。そこで、安来市の現状と、集中取組期間の対応を伺う。

答弁

安来市として、現在ヤングケアラーに該当する事例は確認されていない。今後は、子どもに関わる学校だけでなくヤングケアラーについて知っていただくよう啓発していく。当事者は困りごとを抱え込み、相談先が分からなかったり相談しても解決しないと思ひこんだりしないよう相談先として、児童家庭相談窓口の周知にも努めていく。

女性のがん検診受診

質問

安来市は子宮頸がん検診受診の際に女性医師がいないため、検診をためらう若い人がいる。せめて1年に一度でも女性医師の検診を行う体制ができないのか伺う。

答弁

今年度より受診できる医療機関が一つ増え3つになった事により、女性医師による子宮頸がん検診が実施できるようになった。



安来市のスマート農業

質問

自動操舵システムの現時点での状況を伺う。

答弁

昨年度に大区画圃場整備実施地区の法人等へ6台のトラクター用自動操舵システムを導入したが、Uターンのための自動旋回時における不具合が判明した。県内初の導入であったこともあり、島根県が発注するシステム機器の仕様書作成段階で要求事項が満たされていないことが原因であったが、解決に向けて、対応策を島根県、安来市、JA、メーカーと連携し、協議を重ねているところである。今年度においてトラクター用自動操舵システムを残る1台導入する予定である。

質問

安来地区スマートアグリ推進協議会の運営について伺う。

答弁

運営費の徴収はもとより研修会、講演会、意見交換会などを開



政進クラブ
内田 卓実

催し、各組織との情報共有、技術向上や人材育成の場と位置づけ、横軸での展開も期待をしている。

質問

自動操舵システム以外での今後の計画について伺う。

答弁

光ファイバー及び無線基地局を整備し、水田、農業用水利施設の遠方監視システムあるいは水田の自動給水栓の設置や有害鳥獣捕獲のためのわなセンサーの設置等が可能となる。現在は飯梨川、伯太川沿岸の農事組合法人を対象に、その地域におけるニーズ調査や要求結果を報告していただく作業をすすめている。

質問

情報通信環境整備が進められることで、具体的にどう変わっていくのか伺う。

答弁

自動給水栓を設置した場合、無駄な排水を抑制し、用水を効率的に活用できることはもとより、現地の圃場へ出向かずに気温、水温、水位状況等のデータが確認でき、給排水の操作も可能となることから、排水管理の労力軽減にもつながる。そして、データの履歴を蓄積しつつ、熟練者の意見を取り入れることで、高品質の水稻栽培が可能となると考えている。

6月定例会議

一般質問要旨

自然災害に備えて

市民クラブ
原瀬 清正

質問 通行止めなどの交通情報は住民に直結した情報であることから、自治会や自主防災組織への情報提供が望ましいと考えるが、情報提供についての考えを伺う。

答弁 道路の交通規制などの情報は、行政告知放送や市のホームページなどでお知らせする。市内全域で災害が発生しているような状況では、すべての自治会や自主防災組織に対して個別に連絡することは困難と考えるが、局地的な災害で、個別の連絡が可能な状況であれば、該当する自治会に対して情報提供を行えるように検討する。

質問 罹災証明書は、火災保険の請求や被災者支援の制度を利用する際などに必要な証明書だが、被災された場合の写真の撮影と罹災証明書の必要性を含めた周知についての考えを伺う。

答弁 住家の被害認定調査は市職員が行うが、被害箇所がわからないような修理、片付け等をされると調査が困難となり、本来受けることができる各種被災者支援施策の対象とならないことも考えられる。そのため、罹災証明書の交付申請には、被害の状況が確認できる写真の添付をお願いしている。

周知方法は市のホームページへの掲載、防災に関する出前講座のほか、広報やすぎ6月号への掲載やどじょうテレビでの放送により行っており、被災者が各種被災者支援を確実に受けることができるように広報を徹底していく。

質問 昨年9月の一般質問で、農林関係の自然災害復旧支援の考えを伺った際、「県内他市で独自の豪雨災害の支援制度を創設している例もあり、事例を参考に独自の支援制度を検討する方向で考えたいと思う」との答弁だったが、検討されたのであればその内容について伺う。

答弁 独自の支援について制度化には至っていないが、被災からの復旧には、被害状況に応じたきめ細やかな支援が必要と考えるので、状況に応じた支援をスピード感をもって行っていく。

学校給食の充実を

日本共産党
向田 聡

質問 文科省から、地方創生臨時交付金の物価高騰対応分を活用し、学校給食等の保護者負担の軽減に向けた取り組みを進めるよう通知が出たが、この交付金を活用し、給食の食材費補助や、保護者の負担軽減を図る考えはないか。

答弁 物価の高騰により食材への影響を受けているが、現在のところ食材の変更や献立の工夫などで対応ができています。物価高騰の影響は、保護者に限らず市民全般に及んでいることから、交付金の活用については、市全体の事業の中で検討すべきものと考えています。

質問 現在の地産地消率はどのようになっているか。

答弁 食育推進計画では、目標数値を最終年の令和7年度に45%と設定しているが、令和3年度の実績では約27%と大きく下回っている。今後も、地産地消率の向上に向けて、関係者と協議を継続していきたい。

公立病院としての役割発揮を

質問 安来市立病院は公立の病院であるが、公立の果たすべき役割、その基本となる考えを伺う。

答弁 安来市立病院は、公立病院として今後の人口減少や少子高齢化、医療需要の変化に対応しながら、地域住民に必要な医療サービスを提供し続ける責務があり、これまでと同様に救急医療やへき地医療などの政策的医療を提供する役割を担っていく必要があると考えている。

質問 安来市立病院は、不採算地区中核病院として、二次救急や災害時等の拠点となる中核的な病院として位置づけられた。それによって、新たに設けられた国からの特別交付税の財政措置は、どのようになったのか伺う。

答弁 従前の不採算地区病院に対する財政措置では、令和2年度の繰出基準額は400万円余だったが、新たな財政措置に基づく令和3年度の繰出基準額は9,000万円余となり、そのうち約8割が特別交付税として国から交付されている。

その他の質問事項

市有地空き地の管理・除草について



政進クラブ
湯浅 正志

農業の持続と振興

質問 今後、定年延長が中高年世代の就農に大きく影響し、農業従事者の減少を危惧しているが見解を伺う。

答弁 特定地域づくり事業協同組合との連携や地域の若手や女性の農業への参加の敷居を下げるため、スマート農業による効果的な技術や機械等の導入も一助となると考える。ロボット技術の導入により作業の自動化や作業負担の軽減を図ること、また、ICTを活用することで複雑な判断を要する作業についてわかりやすく技術継承を図ることが農業従事者の確保に繋がる可能性もあると考える。

コロナ禍における

学校教育の現状

質問 コロナの状況に応じて学校の各種行事等が延期及び中止になることがある。このことによる児童生

徒への影響について伺う。

答弁 新型コロナウイルス感染症の拡大により、水泳学習や社会科見学の中止、部活動の活動制限、運動会の開催規模の縮小、宿泊学習や修学旅行の延期及び内容を変更しての実施の他、入学式、卒業式の規模縮小など学校教育活動に多くの影響があった。

これからも、子どもたちの学びを最優先し、各小中学校においては、感染症対策を行った上で、可能な限り多様な体験や活動が行えるようこれまで以上に工夫をして教育活動に取り組んでいく。

ワーク・ライフ・バランスの推進

質問 労働力人口が減少している中で女性や高齢者の就業参加が必要とされているが、出産・婚姻を機に退職するケースや残業が多く仕事と家庭の両立ができないケースがあり、重要な課題と考えている。安来市としての「これまでの取組状況」について伺う。

答弁 男女共同参画推進の観点から、令和2年3月に策定した「第4次安来市男女共同参画計画」に「ワーク・ライフ・バランスの推進」の項目を織り込んでいる。具体的な取組みとしては、市の指導講師による出前講座などでの啓発を行っている。



市民クラブ
岡本 早智雄

消防体制の今後の在り方

質問 市の消防体制の現状について伺う。

答弁 消防本部の職員数が条例定数93名に対し、現在90名の実員数となっている。資機材のうち、車両は消防署に28台、消防団に44台を運用し、老朽化した車両を計画的に更新することとしている。施設数は、消防署は安来、広瀬、伯太、比田、それぞれの地区に4か所、消防団施設は37か所となっている。

質問 消防団については、年々団員が減少しており、特に中山間地域の分団等において顕著であると思うが、その状況について伺う。

答弁 団員数は、条例定数776名に対し、現在652名となっている。定数と実員の乖離は124名である。平成27年当時は720名おられた団員も、現在は68名減少しており、消防団員の勧誘に苦慮されておられるのが現状である。

ある。

質問 広瀬・伯太分署では、分署長も1日ごとの夜勤を含む不規則勤務をしなければ体制が組めないと言っている。広瀬、伯太分署の人員体制について考えを伺う。

答弁 従来、広瀬・伯太分署長は毎日勤務を行っていたが、本年4月より勤務体制を隔日勤務に変更した。分署長は1日置き勤務となり、非番日には不在となるが、災害が発生した場合には署々間の連携を図り対応していくこととしている。

質問 安定的かつ持続可能な消防活動を行っていくために、職員定数を含めた体制の在り方を検討すべきではないかと考えるが、本市の見解を伺う。

答弁 消防職員の条例定数93名に対して、現在90名。近年、救急搬送や火災件数が増加傾向にある中、消防職員は懸命に職務に励んでいる。まずは、計画的な職員採用を行い、条例定数の人員確保に向け取組を進めていく。併せて、令和5年度から予定される地方公務員の定年引上げも見据え、消防職員の体制の在り方を検討する必要がある。条例定数の見直しについても検討を進めたい。

6月定例会議

一般質問要旨



政進クラブ
岩崎 勉

名誉市民と安来市の

にぎわい創出

質問 合併20周年の節目を2年後に控えた今、加納莞薔氏に名誉市民の称号を贈られる検討を、始められる考えの有無について伺う。

答弁 名誉市民の選定については、一定の基準に照らし合わせ慎重に検討していくべきものと考えており、個別な内容について具体的に申し上げることは、差し控えさせていただきます。

質問 刃物まつりが中止となった要因を伺う。

答弁 令和4年度の中止を決定したのは、本年1月20日であり、ちょうど全国で爆発的に新型コロナウイルスの感染者が増えていった時期。市内外からお客様を迎える集客型のイベントのため、感染拡大のリスクが拭えないこと、また、準備を進めるにあたり一定の期間前の判断が必要であっ

たことから、1月の実行委員会で中止を決定した。

質問 月の輪まつり全体の効率的な運営について見直しを図るとは、具体的にどのようなことなのか伺う。

答弁 月の輪神事を来場者が観に行くまつりとして神事主体のまつりへ転換し、来場者が楽しんでいただけるにぎわい創出を図ることを想定しており、地元の皆様をはじめ民間団体等の皆様に企画・運営を含め主体となつていただき運営の効率化を図っていきたい。

質問 なかうみマラソン全国大会の実行委員会には本市も含まれているが、開催に向けての準備段階から開催当日、後片付け等に、職員が何人役動いて、給料・手当として概ねどれくらいの経費が必要となつていくのか伺う。

答弁 なかうみマラソンは担当課職員4名が3ヶ月間かかりきりとなる。また、会計年度任用職員として1名が雇用されている。マラソンの前日と当日の2日間、担当課以外から233人が動員され、これらを人件費に換算すると、1,573万円となる。これ以外に警備会社への委託料など1,100万円が実行委員会に別途支払われている。



政進クラブ
三原 哲郎

竹島問題について

質問 韓国には問題を専門的に研究する国策機関「東北アジア歴史財団」があり、教材面でも日本を圧倒しており、日本と韓国の啓発力の差を痛感しているが、竹島問題について今までの取り組みと考え方を伺う。

答弁 令和元年6月に、竹島問題啓発パネル展を安来庁舎1階において開催をした。全国市長会に対して北方領土の早期返還、竹島に関する啓発活動等の推進に関する提言、この2つを政府並びに国会議員に要請活動を行っている。竹島は我が国固有の領土であり、国の重要な問題であるため、国及び県にしっかり取り組んでいただき、それを注視しながら連携を取っていく。

交流事業について

質問 国際交流についての経過及び実績、現在の活動などを伺う。

答弁 各種イベントでの相互訪問を始め、伝統芸能の相互公演、社日小学校と守山（スサン）初等学校の児童などの交流を実施してきている。

令和元年5月の第61回密陽アリアン大祝祭を最後に、相互訪問が途絶えているが、書面による首長間の挨拶や電子メールによる担当者間の情報交換はしている。

質問 相互の渡航が可能となり、今後の取組については具体的にどのようなことを検討しているのか伺う。

答弁 密陽市とのイベント交流についても見直す時期に来ていると感じており、今後は、再開時期を探りながら、新型コロナウイルスによるニューノーマルに対応した交流事業を双方で検討したいと考えている。

質問 竹島の行政区域がある慶尚北道の市との交流ができるのであれば、大変意義のあることだと考えるが、執行部の見解を伺う。

答弁 平成17年3月の「竹島の日を定める条例」制定後、姉妹提携を結んでいる島根県と慶尚北道との交流が途絶えている状況である。このような状況を鑑みると、現段階では、安来市と慶尚北道の市との行政間の交流は困難と考えている。



政進クラブ
福井 加代子

男女共同参画の推進

質問 他市に比べ女性管理職は、高い比率である反面、各審議会等への女性の参画が伸び悩んでいる。見解を伺う。

答弁 委員の委嘱に際し、条例や規則で職種等を指定していないものは女性の選出をお願いしており、安来市防災会議等で新たに女性委員を増やす動きがある。今後も女性の参画について積極的に呼びかけを行う。

ふるさと教育

質問 島根県が平成31年に県立高校魅力化ビジョンを策定された。安来高校と情報科学高校においても昨年度から取り組みを開始されたが、令和4年度の事業展開を伺う。

答弁 この事業では高校と地域の協働により、安来でしか学べない特色ある教育の提供や、二校とも、コ

ンソーシアムを中心として様々な取り組みをし、地域の方々の参画やサポート等により魅力ある高校を目指す。

質問 いちご農家のタータンされた方が安来を選ばれた理由として、安来市独自の就農パッケージ、研修生用のアパートなど物理的な面もさることながら、市職員の親身な対応が最後の決め手であった。また、今秋就農予定の兵庫県出身の方は、兵庫時代から安来節に魅力を感じ、習っておられ、安来に来て、様々な方とふれあう中で安来に来て本当に良かったと言われた。何故、安来を選ばれたのか、安来節を選ばれたのか、その理由と安来の方々の魅力などをこの高校魅力化推進事業として講演をしていただく取り組みにより生徒が地元を誇りを持つてくれると考えるが、市長の思いを伺う。

答弁 この事業は高校生という、もっとも多感な時期に地域の方と触れ合い、身近にある地域社会の課題に向き合い解決策を導き出す力を身につけることが生徒自身の成長になる。地元を誇りを持った地元志向の高校生となり、県外の大学に進学した後も安来に戻って就職、定住する人材還流サイクルが生まれることを期待する。

お慶び

多年にわたる議員活動により左記の方が表彰されました。

◆全国市議会議長会より
議員活動二十年以上

金山 満輝
永田 巳好

◆中国市議会議長会より
議員活動二十年以上

遠藤 孝

議員活動二十年以上

金山 満輝
永田 巳好

議員活動十六年以上

足立 喜信

石倉 刻夷
中村 健二

議員活動十二年以上

樋野 智之

議員活動八年以上

澤田 秀夫
(敬称略)



常任委員会報告(要旨)

予算決算委員会(6月8日)

議第62号

令和4年度安来市一般会計補正予算 (第2号)

◎再生可能エネルギー普及事業

委員 事業の委託先は、どの様なところに依頼されるのか。

執行部 一般競争入札を予定しており、他の自治体でビジョン策定の実績がある業者などを想定している。

委員 一般競争入札なので、日本全国の業者の中からという考え方でよいのか。

執行部 一般競争入札でも制限を設けることがあり、営業所などの所在地のエリアや、ビジョン策定の実績があるところなどの要件を設けながら実施することになる。

◎水田園芸推進事業

委員 ハウスが整備されると、アスパラガスの生産量はどのくらい増えるのか。

執行部 令和3年度実績は7千70kgであった。整備後は1万350kgを想定している。



委員 アスパラガスは高収益作物ということで期待されているが、産地育成が大きな課題となっている。非常に有効な事業だと思っており、JAや農事組合

法人と協力して、実効性が出るよう最後まで手厚い支援を継続し、安来市の一つの大きな特産品になるよう、育成していただきたい。

◎学習支援員・スクールスタッフ

配置事業

委員 学習支援員は4校、スクールサポートスタッフは3校に配置されるが、選定理由は何か。また、今後も予定があるのか。

執行部 選定は、特別支援教育支援員を要望していたが、そこから漏れた学校を中心に、現状をしっかりと精査した上で配置をした。今後については、年度ごとの国・県補助金であることから、想定ができない。

議第63号

令和4年度安来市病院事業会計補正 予算(第1号)

委員からの質疑等なし

文教福祉委員会(6月9日)

安来市立病院改革プラン(令和4年版)等について執行部より説明を受けた。

地域振興委員会(6月10日)

現地視察



仮設橋

6月10日、トラクター用自動操舵システム試運転、高広ため池廃止事業竣工現場、浦ヶ部幹

線雨水渠整備事業現場、南十神雨水ポンプ場、安来港飯島線道路改良事業の仮設橋、東飯島地区内水対策事業現場の視察を行った。



自動操舵システムによる代掻き



南十神雨水ポンプ場

総務企画委員会(6月13日)

議第61号

安来市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例等の一部を改正する条例制定について

改正内容についての確認のみ

議第61号

安来市地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例制定について

委員 この制度で、令和3年度までに安来市へ移転した企業はあるか。

執行部 令和4年4月現在で県内では4社が認定されているが、安来市の該当はなかった。

委員 移転型と拡充型にそれぞれ地域が設定されているが、この違いはなにか。

執行部 それぞれに国の示す基準があり、それを踏まえたうえで設定をしている。拡充型には地番が付与されている地域があるが、これは、設定当時に既に企業が存在している地番であり、地域を絞って設定している。

委員 この不均一課税というのは、何を指して言っているのか。

執行部 安来市の固定資産税率が1.6%となっているものを、この制度において一部を免除するとか、0.4%や0.8%といったものにするため、不均一ということになっている。

現地視察

6月13日 広瀬庁舎と広瀬中央交流センターの視察を行った。両施設ともかなり老朽化が進んでおり、建替や耐震補強の工事が必要な状況である。



広瀬庁舎視察



広瀬中央交流センター視察

やすぎ未来トーク

hug組(はぐくみ)のみなさまと

日時：令和4年5月23日(月)
場所：アルテピアカフェ
参加者：hug組のみなさま(5名)
参加議員：福井加代子 飯橋由久 湯浅正志

(1) イベントの開催について

■イベントの開催で補助金や助成金を活用する計画を立てた場合、市や県等、交付する側からコロナの感染状況を見てイベント中止を命じられることがある。

■マスクの着用・手指消毒や一般的なコロナ対策は講じるが、さらに「こんなこともできる」などの工夫があるか。

■今回のイベントは「安来」の良さを改めて知ることというテーマに取り組みたい。「安来」のよりよい未来を創るためには、安来の魅力に更に気付くことも重要である。面白さや素敵な点について、視点を分けていただきたい。

(2) 子育て、教育について

■hug組を始めたきっかけでもあるが、イベント等を通じてひとりの人が生まれ育っていき事により関心が増え、温かな安来の子育て環境の更なる向上が出来るという。



■「孤独」を無

たくさんの人に 安来の魅力を伝えたい



すぎ』という存在を、いつでも心の支えやお守りに感じられる様なまちにしたい。

■教育の充実、人口の増加にも関連していると考える。また、地域と共に更に育っていきけるまちになる。

安来の子育て環境をもっとよくしたい、また安来の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい……そんな強い気持ちで結成された「hug組(はぐくみ)」のみなさまとやすぎ未来トークを開催しました。安来に対する熱い思いのこもったトークを交わすことができました。ご参加いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。



伯太町のみなさまと

日時：令和4年6月19日(日)
場所：母里交流センター視聴覚室
参加者：伯太町のみなさま(22名)
参加議員：佐々木厚子 清水保生 向田聡
三島静夫 原瀬清正 三原哲郎

① 移住定住支援分科会

【住まいの情報・確保】

- ・空き家バンクの情報が少ない。PR不足・工夫が足りないのでは。
- ・住まいの確保が移住定住しようとする者にとっては重要。
- ・登録物件の数を増やしてほしい。空き家はあるが、登録が少ないのでは。
- ・空き家を使ってほしい人(持ち主)と空き家を使いたい人(移住者などの借り手)の仲介を市が積極的にやってほしい。
- ・移住してきた者にとってメリットとなる対策支援がほしい(定住に繋げていくためにも、例えば数年住めば家賃は無料とか。移住者への補助金・家賃支援等)。
- ・中山間地を希望する人には、田や山がついてくるなどの情報(特典)があるといい。
- ・古民家も、何年か住めば無料にするなど特典があれば、空き家対策解消につながる。
- ・お試し住宅を無料にしてほしい。
- ・都市計画区域外での規制の緩和や定住特区をつくるとか。
- ・農業振興地域や、市街化調整区域でも、家の新築や駐車場を作ったりできるようならなければ人の流出につながる。
- ・移住者へのサポートができるよう近隣の方へのアドバイス支援。

【人口増対策】

- ・人口増にどうつながっていくかが全ての問題につながる。
- ・人口が増えている地域の特徴を探る。
- ・この問題についての議論や熱意が感じられない。
- ・企業誘致、産業振興(安来の特徴を生かす・情報高校卒業生の進路)、工業団地推進(場所の確保)
- ・近場で働く(働きやすい所)場の確保。女性が働きやすい条件をつくる(学童保育など子育て支援の充実)。まずは地元の人を優先した働く場の確保を。
- ・働く場として、製造業だけでなく、医療・福祉の場の充実も必要。
- ・シニア年齢世代に対しての支援も。伯太(安来)の良さのアピール
- ・地域・人とのつながりが豊か(自然環境・地区自治会・行事まつり)
- ・つながりも程よい関係が保てる。気軽に声かけられる。
- ・高齢者が元氣。多世代の中で、子ども達ののびのび暮らしていきける。
- ・利便性・居住性が良い。
- ・車がなければ、旧安来・米子・松江に近く気軽に行ける。
- ・家賃が安い。



②子育て支援分科会

- ・子育て支援に地域の方を巻き込む仕組みが欲しい。
- ・大人と子どもが挨拶をする場をつくらなければならない（ことばの力）。
- ・不登校の生徒児童への支援の充実（義務教育後の支援）。
- ・子育てと仕事の両立がしっかりとできる支援。
- ・給食費を所得に応じて設定してほしい。
- ・給食が冷めているためか、骨のついた魚は最初から子どもが食べない。
- ・伯太に子どもと一緒に出掛ける場所が欲しい。
- ・子育て支援制度の周知をしっかりとしたい。
- ・子育て支援を含め安来市の政策は市民目線なのか、安来らしさが欲しい。
- ・小中学校の再編成は必要だと思う。
- ・安易に小規模学校の統合をしてほしくない。
- ・行政はワークバランスの考え方が固い。



③高齢者生活支援分科会

【移動手段の確保】

- ・高齢者の免許証返納も増えるなか、移動手段の確保が困難、タクシー利用は負担が大きい。

中山間地域の声を届けたい

- ・通院や買い物等の移動手段として、タクシー利用に行政からの支援があると嬉しい。（タクシーの公共交通化）
- ・高齢者外出支援事業（市単）があるが、対象が市県民税非課税世帯など、制限が多く利用できない。利用範囲等を含め、利用し易い制度へ見直して欲しい。
- ・日常の買い物も大切だが、イエローバスは利用し辛い。移動販売車での支援などは有効だと思うが、事業者への支援を行政がしないと継続できないのでは。
- ・比田地区での「小さな拠点づくり事業」は参考となるが、伯太地区では事業主体が少ない。立ち上げに際しては行政の支援をお願いしたい。
- ・デマンド輸送では、万一の事故が起こった時のことが心配。車両の保険などはどういうになっているのか。

【地域との関わり、健康づくり】

- ・高齢者だけの世帯にならないような施策が必要。高齢者だけでは農業も維持できない。若者の働く場が必要。
- ・普段から地域との付き合い、コミュニケーションが大切。



- ・長寿社会では健康づくりが大切。高齢者クラブ等が行う活動に少しでも多くの人が参加してもらいたい。
- ・市からの情報、お知らせ等情報伝達の方法は工夫してほしい。ホームページやインターネットを使えない高齢者も多にいる。



伯太町内のたくさんの方に「ご参加いただき、生活に密着する「移住定住支援」「子育て支援」「高齢者生活支援」の3つの分科会に分かれてやすぎ未来トークを行いました。それぞれの分野で、生活の中で感じてもらえる思いや課題など、たくさんのお話を伺うことができました。

「ご参加いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。」

編集後記

広報広聴委員会の担当になり、3回目の議会だよりの発刊となりました。

表紙の写真を撮りに、数年ぶりに「日本の名水百選」にも選ばれている「鷹入りの滝」まで行ってきました。整備された階段を登っていくと、杉木立と奇岩を経て4つの滝があります。マイナスイオンの中で、一足先に涼を満喫してきました。

5月と6月に「やすぎ未来トーク」も開催され、貴重なご意見を沢山伺うことができ、特集を載せることができました。

過去最短の梅雨が明け40℃近い猛暑が続いています。新型コロナウイルス感染者も増加傾向にあり、ロシアのウクライナ侵攻も3か月以上続いております。このトリプルパンチが早く収まることを願うばかりであります。

広報広聴委員会

三原 哲郎

スマホアプリ「マチイロ」にやすぎ市議会だより配信中！



YouTubeで市議会配信

